

\*\*\* 釈迦堂 \*\*\* 重要文化財

説明文

安政5年（1858年）に建立された前本堂であり、大本堂の建立にあたって昭和39年（1964年）現在地に移築されました。ご本尊には仏教を開かれた釈迦如来が安置されています。

周囲の板壁には修行僧として最高位に到達し、功德をそなえた五百羅漢像を見事な浮彫彫刻で8面、また扉には、中国の代表的な孝子物語である二十四孝12面を付けるなど堂内の華麗な欄間彫刻とともに、時代の特徴をよくあらわしています。板壁の五百羅漢は、絵師狩野法眼一信の下絵をもとに、仏師松本法橋良山（通称不動金兵衛）が10年の歳月を費やして彫刻したものです。また扉の二十四孝は、無関堂島村俊表の作です。

建物は5間堂で、中央の柱間が広くとられています。屋根は入母屋造の瓦棒銅板葺で、正面には千鳥破風と軒唐破風付の向拝を設け、荘重さを加えています。組物には、三手先を詰組とし、軒は二軒の繁垂木で総檜木を用いています。 釈迦堂中尊・釈迦如来像の印相は触地印

代々続く彫工御三家の嶋村家 初代島村俊元 二代目島村圓鉄 八代目島村俊表

現在は厄除け祈願所となっています。

阿修羅像は三面六臂（顔が三面、手が6本）であるが、三面の五百羅漢を探してみよう！  
また心は不動明王に成っているよと、心の中を見せている五百羅漢もある。（刻銘の板壁にあり）



金地着色の板絵「天女図」



水墨銀泥の「雲龍図」



金地着色の板絵「天女図」



千手観音像 普賢菩薩像 釈迦如来 文殊菩薩像 弥勒菩薩像  
平成三年（1991）造仏：松久宗琳 截金：松久真や



千手観音像

せんじゅかんのん



普賢菩薩像

ふげんぼさつ



文殊菩薩像

もんじゅぼさつ



弥勒菩薩像

みろくぼさつ

普賢菩薩は六本の牙を持つ象に、文殊菩薩は獅に乗っています。

**銀泥**（ぎんでい） 銀粉を「**にかわ**」で溶いた顔料

**截金**（さいきん）**截金**・切金（きりかね）は、細金（ほそがね）とも呼ばれ金箔・銀箔・プラチナ箔を数枚焼き合わせ細く直線状に切ったものを、筆と接着剤を用いて貼ることによって文様を表現する伝統技法である。

**印相**は**触地印**（そくじいん）降魔印ともいう。座像で、手の平を下に伏せて指先で地面に触れる。伝説によると、釈迦は修行中に悪魔の妨害を受けた。その時釈迦は指先で地面に触れて大地の神を出現させ、それによって悪魔を退けたという。このため触地印は、誘惑や障害に負けずに真理を求める強い心を象徴する。釈迦如来のほか、阿闍如来や天鼓雷音如来が結ぶ。

**絵師狩野法眼一信** 板壁の五百羅漢は、絵師狩野法眼一信の下絵  
成田山新勝寺の釈迦堂の外陣天井に水墨金泥の「雲龍図」と金地着色の板絵「天女図」を描く。



**軒下羽目板** 彫工 **後藤縫之助** 安政四年(1857)32才

**内陣欄間・向拝** 彫工 長谷川権頭**藤原政義**・「石原流」 安政四年(1857)  
欄間「孔雀・鳳凰・唐獅子等」



[松に孔雀] [桐に鳳凰] [松に孔雀]

東西北の三方の扉の樫の板は**玉杓**  
樫の杓にはこの他 **泡杓** **牡丹杓**がある

**五百羅漢とは**

今から2000年前**仏典**を**編集**するために最初に集まった500人の**最高位**の**修行僧**を云います。